

**前唄「土俵のヤ」**

土俵のヤ砂付け 男を磨き  
錦をヤ飾りて 母待つくにへ

**前唄「揃うたヤ」**

そろうたヤ揃いました 相撲取り衆が  
稲のヤ出穂より なおよく揃うた

**後唄「さらばヤ」**

さらばヤ ここいらで唄の節をかえて  
いつもヤ 変わらぬ相撲取り甚句

**後唄「めでたヤ」**

めでたヤ ございさで唄の節をかえて  
いつもヤ 変わらぬ相撲取り甚句

**本唄「双葉山」**

史上不滅の大横綱はヨ  
三十五代の双葉山  
気品あふれる土俵上  
力量ならば群を抜く  
得意の右四つ上手投げ  
全勝すること八回と  
優勝すること十二回  
無敵の六十九連勝  
受けてさえるは二枚腰  
天下にその名を轟かし  
昭和の国技相撲史に  
黄金時代を築き上げ  
後に年寄 時津風  
力士の育成燃えに燃え  
育てし横綱 鏡里  
続く大関 大内と  
北葉山から豊山  
あまた出だせし名力士  
時に協会理事長の  
多くの重責担いつつ  
五十五歳で世を去りぬ  
いまだ敗れぬ連勝に  
世の人々は今も言う  
双葉の前に双葉なく  
双葉のあとにはヨホ  
ア 双葉なしヨ

**本唄「東西南北」**

東西南北甚句でとけばヨ  
東はアノコの団子山  
西はソップの竿ヶ嶽  
行司の団扇でハツケヨイ  
突っ張り押し合い上手投げ  
残して足癖切り返し  
手に汗握る大相撲  
ご見物なる親子連れ  
勝負は決まって東西で  
何故に南北ないのかと  
棧敷で子供が聞くほどに  
親父が答えて言うことにや  
東と西の取り組みを  
みな見(南)に来た(北)では  
ヨホホイ  
ア ないかいなよ

**本唄「浮き雲」**

勝てば極楽 負ければ地獄よ  
アードスコイ ドスコイ  
アアアとかく浮き世は罪なとこ  
負けちゃならぬと思えども  
俺もやっぱり人の子か 流れ流れる浮き雲に  
ゆくえ定めぬ旅空で  
遠い故郷(ふるさと) 偲ぶたび  
熱い涙がついほろり  
とゆうて戻れる訳じやなし  
ここが我慢のしどころよ  
どんと 大地を踏みしめて  
一押し二押し三に押し  
押せば 芽も出るヨホホイ  
アアア花も咲くよ

**本唄「立つものづくし」**

立つもの集めて甚句にとけばヨ  
ハアアアエー  
正月門に松が立つ  
二月は初午 お稲荷さんで幟立つ  
三月節句で雛が立つ  
四月八日にや釈迦が立つ  
五月は男の節句で鯉が立つ  
六月祇園に神輿立つ  
七月七夕さんで笹が立つ  
八月お盆で仏立つ  
九月は秋風吹くので埃立つ  
十月出雲に神が立つ  
十一月も早や経って  
十二月ともなつたなら  
どこの家でも同じこと  
借金取りが門に立つ  
借りた覚えはあるけれど  
返す時にはヨホホイ  
ハアア 腹が立つヨ

**本唄「奈良県名所」**

奈良の名所を甚句にとけばヨ  
すぎし古 万葉の  
句うがごとき大和路に  
月もうつりし猿沢の  
五重塔なら興福寺  
若草山を右に見て  
春日の社に鹿の群れ  
二月堂ではお水取り  
金剛力士や南大門  
日本一なる大仏は  
天平偲ぶ東大寺  
柳生の里をはるか見て  
大宮人が歌を詠み  
文化を辿りし山の辺の  
東は宇陀か月ヶ瀬か  
西には生駒に金剛山  
聖徳太子は斑鳩の  
鐘が鳴るなり法隆寺  
南は吉野の山ざくら  
飛鳥の里やら古墳やら  
あまた数あるその中で  
相撲じや名高いヨホホイ  
アア 笠置山ヨ

**本唄「世界遺産 平城宮跡」**

平城宮跡甚句にとけばヨ  
ア  
いにしえ宮処平城宮  
基壇に立ちて眺むれば  
東は春日に御蓋山  
西は生駒に信貴の山  
大和三山はるか見て  
青垣めぐる平城山  
時代は幕末 藤堂藩  
北浦定政京を歩き  
描いた図面平城宮  
大内裏跡坪割図  
棚田嘉十郎生涯を  
宮跡保存に尽力す  
平成時代の工匠わざ  
東院庭園朱雀門  
大極殿の復原は  
遷都記念の大事業  
千三百年その歴史  
天平文化を伝えたる  
平城宮跡ヨホホイ  
ア 世界遺産ヨ

**本唄「お国自慢」**

お国自慢を甚句に読めばヨ  
ハアア  
北は北海盆踊り  
八戸小唄で夜が明ける  
今も昔も変わりに  
草木もなびく佐渡おけさ  
どじょうすくい安来節  
三井三池の炭鋳節  
花笠音頭にや花が咲く  
博多祇園か黒田節  
日向かぼちやかよか嫁よ  
ひえつき節には鈴がなる  
ばってん熊本おてもやん  
お国自慢のその中で  
相撲甚句はヨホホイ  
ハアア 日本一ヨ

**本唄「花づくし」**

花を集めて甚句にとけばヨ  
ハアア  
正月寿く福寿草  
二月に咲くのが梅の花  
三月桜に四月藤  
五月あやめにかきつばた  
六月牡丹に舞う蝶や  
七月野山に咲く萩の  
八月お盆で蓮の花  
桔梗かるかや女郎花  
冬は水仙玉椿  
あまた名花のある中で  
自慢で抱えた太鼓腹  
繻子(しゅす)の締め込みバレン付き  
雲州たばねの櫓びん  
清めの塩や化粧紙  
四股踏み鳴らすは土俵上  
四つに組んだる雄々しさは  
これぞ誠のヨホホイ  
ハアア 国の華ヨ

**本唄「豆腐屋」**

ハアアアエー  
今度この町に豆腐屋ができたよ  
ハアア  
そこで豆腐の云うことにや  
わしより因果なものはない  
朝は早ようから起こされて  
水攻め火攻めに合わされて  
水攻め火攻めは良いけれど  
一丁二丁の刻み売り  
後に残りしおからまで  
一銭二銭のつかみ売り  
そこで親はと尋ねたら  
親は畑でヨホホイ  
ハアア マメでいるヨ

**本唄「ご祝儀結婚」**

ハアアアエー  
めでためでの 若松様 ヨ  
ハアア 真砂高砂 御席は  
この度ご縁が ありまして  
〇〇(新郎の姓) 〇〇(新婦の姓) 〇〇両家が  
深い契りの ご婚礼  
松竹梅に 彩られ  
〇〇君には 〇〇さん(新郎新婦の名前)  
お若い二人が 結ばれて  
両家も千秋 万々歳  
福寿の宴(うたげ)は ご親族  
お友達やら 皆様の  
心からなる ご祝辞に  
鶴は千年 亀万年  
永い人生 未広の  
いついつまでもの 幸せを  
挙げて お祝い ヨホホイ  
ハアア 申します ヨ



**本唄「當麻名所」**

當麻の名所を甚句にとけばヨ  
大津皇子の万葉の  
二上山にと抱かれて  
白鳳文化に天平に  
歴史のロマンと花の里  
国見が開きし當麻寺は  
西に東に塔の屋根  
時代を超えたる大伽藍  
浄土にお練りは中将姫  
ぼたん花咲く石光寺  
諸人祈るは傘の堂  
名僧源信高雄寺  
飛鳥の旅のつれづれば  
竹内街道峠道  
孝女の伊麻にとさそわれて  
芭蕉か句を詠む綿弓や  
夏にはホタルに盆おどり  
秋ならいちごにもみじ狩り  
あまた数あるその中で  
国技相撲の発祥地  
郷土ではやの大まつり  
青少年への育成に  
人気力士も勢揃い  
挙げてお祝いヨーホホイ  
アーア 申しますヨ

**本唄「関西名物」**

関西名物甚句にとけばヨ  
紀州和歌山みかん山  
枝に黄金の花が咲き  
大地港にや大きく  
奈良の都は八重桜  
大仏さんには鹿の群れ  
當麻曼陀羅 中将姫  
いわれの里の三輪そうめん  
琵琶湖に架かる瀬田の橋  
小鮎のあめ煮き舌づつみ  
味は自慢の近江牛  
京なら西陣友弾と  
八ツ橋舞妓に宇治のお茶  
丹後の宮津で白魚か  
丹羽甘栗 松茸と  
可愛いあの娘は宝塚  
みなと神戸の浜千鳥  
きりりとうまい灘の酒  
大阪城なら岩おこし  
てつちりバッテラ塩昆布  
大阪なにわのヨーホホイ  
アー食いだおれヨ

**本唄 相撲館「けはや座」創立記念甚句**

ア  
むかし大和のこの地にて  
ならぶ者なき力士  
當麻蹶速の豪言に  
天皇がまねきて開かれる開かるる  
野見宿禰が決戦は  
世にうたわれし伝説の  
日本の国技の発祥地  
後に諸人崇拜し  
語り継がれし寺に塔  
このたび歴史と文化の地  
葛城市民こそりての  
相撲の館けはや座が  
平成時代の完成は  
まことめでたき大事業  
春の花咲くこの良き日  
記念の横綱土俵入り  
挙げてお祝いヨーホホイ  
アー  
申しますヨ

**囃子唄「今宵は二人で」**

今宵は二人で 四つ相撲  
どちらががぶるか かばい手か  
内掛け 外掛け 腰砕け  
余計なことだが ハツケヨイ ハツケヨイ

**囃子唄「立てばシャクヤク」**

立てばシャクヤク 座れば牡丹  
歩く姿は 百合の花  
近頃世の中 不景気で  
私のまわりの 閑取衆  
立てば借金 座れば家賃  
歩く姿は 質屋へ お使い お使い

**囃子唄「のみのすくね」**

野見宿禰と當麻蹶速、日本書紀に記されし  
天覧相撲の始まりは、大和の国の  
葛城市 葛城市

**囃子唄「緋鯉に真鯉」**

緋鯉に真鯉は池の鯉  
男と女がいろ恋で  
相撲取りや土俵で  
ドスコイ ドスコイ

**囃子唄「みかんきんかん」**

みかん、きんかん、夏みかん  
親の説教 子は聞かん  
都会の娘は気が聞かん  
うちのおやじは働かん  
相撲取り冬でも風邪ひかん  
投げ捨てやめよう空き缶空き缶

**本唄「当地興行」**

当地興行も本日限りヨ  
ア  
勸進元や世話人衆  
ご見物なる皆さまよ  
いろいろお世話になりました  
お名残惜しゆうはそおらえど  
今日はお別れせにやならぬ  
われわれ立ったるその後は  
お家繁盛町繁盛  
悪い病の流行らぬよう  
陰からお祈りいたします  
これから我々一行も  
しばらく地方をば巡業して  
晴れの場所でも出世して  
またのご縁があったなら  
再び当地にまいります  
その時やこれにも勝りしご最原を  
どうかひとえにヨーホホイ  
ハアー 願いますヨ

**囃子唄「せつかくなじんだ」**

ハア せつかく馴染んだ皆様と  
今日はお別れせにやならぬ  
いつまたどこで会えるやら  
それともこのまま会えぬやら  
思えば涙が パラーリ パラーリと

# 相撲甚句

相撲甚句（すもうじんく）とは、江戸時代頃から唄い継がれている相撲界独特の唄で、しみじみさ

や哀愁のなかに、ちよつとしたユーモアを加え、聞く人に不思議な感銘を与えてくれます。  
独特の節回しで唄われる相撲甚句の伝統の世界をお楽しみ下さい。

**「相撲甚句の日」**  
毎月第1日曜日 午後2時～4時頃  
(1月は第3日曜日)  
入館料 大人300円

相撲甚句と市内観光のお問合せは、  
**葛城市相撲館**  
〒639-0276 奈良県葛城市當麻83番地1  
TEL 0745-48-4611  
※火・水曜日は、休館です。(祝日は開館します)



奈良県葛城市

## けはや相撲甚句会